

「入門講座担当者養成講座」へのお招き

「共に歩む信仰の旅 — 同伴者イエスと共に — 」
「入門講座担当者養成講座」へのお招き

東京大司教区 教区長 タルチシオ 菊地 功

「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを割くこと、祈ることに熱心であった」

使徒言行録2章42節には、初代教会共同体の姿がこのように描かれております。初代教会共同体は、互いに信仰を学び、互いに支えあい、互いに分かち合い、互いに祈りあっていたのです。この「学びあい、支えあい、分かち合い、祈りあい」は、豊かで成熟した信仰共同体に不可欠な要素です。

使徒言行録はさらに、その初代教会共同体は「民衆から好意を寄せられ」、それがために「主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」とも記しています。「学びあい、支えあい、分かち合い、祈りあう」信仰共同体は、それによって「あかしによる宣教」の共同体となっていくのです。福音宣教を目指す教会共同体にとって、信仰を学び合うことは、欠かせない重要な務めです。

信仰における学びは、洗礼や堅信の準備で終わるものではなく、生涯を通じて深められていかななくてはなりません。そして学びの機会を提供するのは、司祭などに限定された務めではなくて、信仰共同体を構成しているすべての人の務めでもあります。東京教区では今、この互いに学びあう奉仕の務めに、積極的に協力して下さる方を求めています。

今回は、教区の生涯養成委員会が、まずその一つの段階として、入門講座を担当する信徒の奉仕者を養成するための、連続した講座を用意いたしました。

東京教区のそれぞれの信仰共同体が、豊かに育まれた共同体となるように、そして福音をあかしする宣教の共同体となるように、ひとりでも多くの方が、この互いに学びあう奉仕の務めに参加して下さることを期待しております。

詳細につきましては、各小教区の主任司祭宛に送られる「募集要項」を御一読下さい。